

カンクン会合(COPI6/CMP6) 報告会

日本のNGOはカンクンをどう見たか？ 「REDD+の論議と今後の課題」

2011年1月13日（木）

- ・ レインフォレスト・アクション・ネットワーク（RAN）

川上豊幸

1

世界の人為起源の温室効果ガス排出 (IPCC 『気候変動2007 統合報告書』)

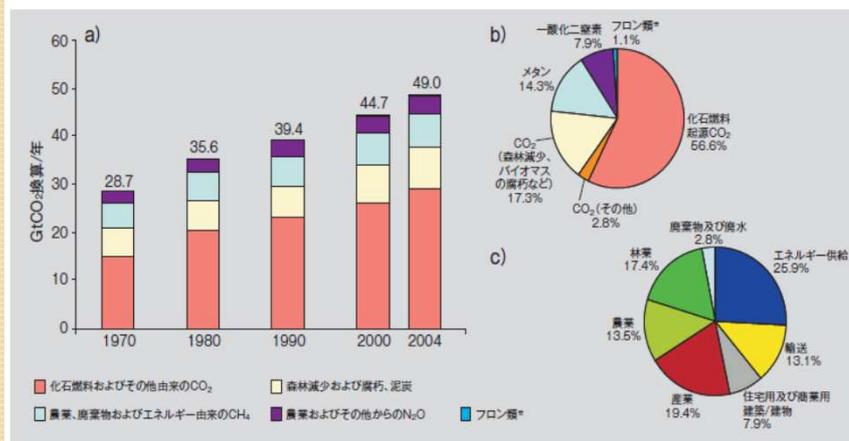
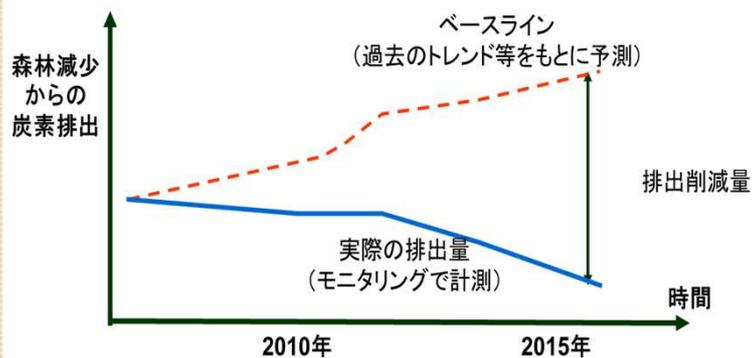


図 SPM.3. (a) 1970~2004年の世界の人為起源温室効果ガスの年間排出量^{a)}、(b) 2004年の人為起源温室効果ガス総排出量に占めるガス別排出量の内訳 (CO₂換算ベース)、(c) 2004年の人為起源温室効果ガス総排出量に占める部門別排出量 (CO₂換算ベース)の内訳。(森林部門には森林減少を含む) (図2.1)

REDDとは？

- 途上国における森林減少・劣化防止による温室効果ガスの削減
(Reduce Emission from Deforestation and Degradation in Developing countries)
- 途上国における森林の減少・劣化を対策を講じて防止した際、何も対策を講じなかった場合 (Business As Usual) に排出されたであろうGHGを削減したとみなし、インセンティブを与える。



3

REDD+の活動とは？

- REDD-plusの活動内容
 - (a) 森林**減少**からの排出の削減
 - (b) 森林**劣化**からの排出の削減
 - (c) 森林炭素蓄積の**保全**(conservation)
 - (d) 森林の持続可能な管理
 - (e) 森林炭素蓄積の**強化**(enhancement)

4

REDD+交渉の概要

- REDD+活動の目標：締約国は協力して条約の最終目標に合致するように、森林被覆と炭素喪失を緩め、停止し、反転することを目的とする。
- REDD+の段階的アプローチ決定
- (1)国家戦略や活動計画、政策措置の開発とキャパシティ・ビルディングで開始（計画段階）
→(2)さらにキャパシティ・ビルディングと技術開発、技術移転、成果ベースでの実証活動(demonstration activities)を伴う政策措置や戦略、活動計画の実施（実証段階）
→(3)完全に、測定(measure)、報告(report)、検証(verify)（MRV）の対象となる成果ベースの活動に展開へ（完全実施段階）

5

REDD+実施のためのセーフガード

- セーフガード（負の影響への予防措置）2.Annex I
 - (a)国家森林計画の目的、条約や協定を補完、合致
 - (b)透明で効果的な国家の森林ガバナンス構造
 - (c)国連総会での先住民族の権利宣言を留意し、先住民族や地域住民の知識や権利を尊重
 - (d)利害関係者の完全で効果的な参加
 - (e)天然林の土地転換には利用せず、代わりに天然林や生態系サービスの保護や保全、社会的環境的ベネフィットを強化するようなインセンティブを与えるために利用することを確保して、天然林の保全や生物多様性の保全に合致する行動
 - (f)反転リスクに対処する行動
 - (g)排出の転移を減少する行動

6

セーフガード（予防措置）適用関連

- 適用レベルの文言
「確保(ensure)」 or 「促進し支援(promoted and supported)」
69. 活動の実施はAnnex I(ガイダンスとセーフガード)に合致するように行われるべきであること(should be carried out)、そしてセーフガードが促進し支援されるべきことを支持(affirms)。
- 71.(d) セーフガードが、いかに対処、尊重されたのかについて、**情報提供するシステム**の開発（セーフガードのMRVで「確保」へ）
72. 国家戦略や行動計画の開発と実施時には、先住民族や地域住民等の関連する利害関係者の**完全に効果的な参加を確保**して、途上国が森林減少や森林劣化の誘因(drivers)や、土地問題、森林ガバナンス、ジェンダーの考慮、セーフガードの問題に取り組むことを**要請**。

7

REDD+の誘因(drivers)の検討

- 68. 全ての締約国が森林減少の**誘因(drivers)**に対処するための活動を含めて、温室効果ガスの排出を引き起こす森林への人為的な圧力を低下するための有効な方法を見つけるように奨励する。そして上記72.
→ガバナンスやDemand Side Measuresの検討可能
- Annex2(a) 途上国での土地利用、土地利用変化や林業活動による排出量や吸収量の推定し、気候変動の緩和への潜在的な貢献を評価するための方法論的な課題を特定するために、それら森林減少や森林劣化の**誘因(drivers)**に関連する活動を特定。
→SBSTAでの議論へ
- →森林減少や森林劣化の重要な誘因である先進国からの需要への対処の重要性への認識

8

資金確保の方法について

- 76. 国家戦略や活動計画、政策の開発やキャパシティビルディングの策定への支援を特に先進国が多国間、二国間のチャンネルを通じて行うよう要請
- 77. AWG-LCAが完全実施のための資金オプションに関する調査を行い、決定への勧告を含めて、進展についての報告を行うよう要請
→ 決定は先送りへ
- 資金確保方法の検討（マーケット利用の可否、オフセットとしてのクレジット化問題）
→ オフセットとしてのマーケット利用では「削減量」が移転され、先進国の排出量の削減義務回避に利用可能？

9

今後のREDD+の課題

- 資金確保方法の検討（マーケット利用の可否、オフセットメカニズムとしてのクレジット化問題）
- REDD+の技術・方法論的課題
～MRVの「M」（測定）のための方法論
→ 定義の問題

～「セーフガード」は情報提供システムのみ
いかに確認・検証（V）するのか？
→ 苦情処理システムの必要性の検討は？

～需要圧力という森林減少の誘因への対処の議論

10

SBSTAでの技術・方法論的課題

- (b) 国家レベル（暫定措置では地方レベルも可能）での参照基準となる森林からの排出レベルや森林の参照レベル(71(b))、REDD+ 活動のモニタリングや報告のためのシステム(71(c))に関連する細目規定と、セーフガード対処に関する情報提供システム（71(d)）に関するガイダンスを策定
- (c) 途上国によるNAMAのMRVに関連するガイダンスと合致する形で、REDD+の実施による森林に関連する人為的な排出や吸収、森林炭素ストック、森林炭素ストックと森林地域の変化を測定、報告、検証するために細目規定を策定する。
- → 「森林」の定義、「森林減少」や「森林劣化」、「持続可能な森林管理」、「天然林」等々の内容についても議論が必要。Ex. 定義しだいで、REDD+は実質的に森林破壊や炭素排出を促進する可能性も。
- →セーフガード実施の情報提供システムの内容検討

11

ご清聴ありがとうございました。

12